

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			社会科学概論	法や行政制度、犯罪者や病者、障害者などを取り巻く問題の検討を通じ、社会保障や公衆衛生について理解を深める。	1 前期	32	2	○			○			○		
2	○			自然科学概論	高校までの理科に関する基礎知識を確認、補強する。	1 前期	32	2	○				○			○	
3	○			人文科学	医療に関連する語彙・表現等を理解するとともに英語によるコミュニケーションの要領を習得し、国際的医療人として必要な語学（英語）能力の基礎を確立する。	1 前期	32	2	○				○			○	
4	○			身体と科学	身体のメカニズムを理解し、身体運動の骨・筋・関節の働き、体力など身体活動の概要を理解する。	1 前期	32	2	○				○		○		
5	○			人間学Ⅰ	哲学とは、何か。何を対象に研究しているものか。そして、哲学は私たちにどう役立つものなのか学ぶ。	1 前期	32	2	○				○			○	
6	○			人間学Ⅱ	生命倫理学全体を俯瞰的に概括したのち、各論を個別に検証する。それぞれの問題の構造を分析し、現状を理解する。さらに、問題解決への道筋についても考える。	1 後期	32	2	○				○			○	
7	○			人間学Ⅲ	医療人として患者が抱える医学的問題だけでなく、心理的問題や社会的背景も包括する全人的医療について理解する。良好な医療コミュニケーションの臨床的意義、問題解決に至るまで臨床上で何が必要かを考え、患者とのラポールの形成から情報収集、基本的態度や技法についてを身に付けることを目標とする。	1 後期	32	2	○				○			○	
8	○			解剖学Ⅰ	骨格系について、人体を構成する全ての骨とその連結について詳細に学んでいく。	1 前期	32	2	○				○			○	
9	○			解剖学Ⅱ	全身の筋肉の名称と構造、存在部位、作用、起始停止、神経支配などを学ぶ。	1 後期	32	2	○				○			○	

10	○			解剖学Ⅲ	内臓学総論、消化器系、心臓・脈管系の位置・構造・機能を理解し、柔道整復師の臨床に必要な解剖学知識を身に付ける。外傷に伴う内臓損傷への理解や、内科的疾患の理解を得るための基礎的知識の習得を目標とする。	1 後期	32	2	○				○			○	
11	○			解剖学Ⅳ	呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の位置・構造・機能を理解し、柔道整復師の臨床に必要な解剖学知識を身に付ける。外傷に伴う内臓損傷への理解や、内科的疾患の理解を得るための基礎的知識の習得を目標とする。	1 後期	32	2	○				○			○	
12	○			解剖学Ⅴ	中枢神経系・末梢神経系、感覚器系の位置・構造・機能を理解し、柔道整復師の臨床に必要な解剖学知識を身に付ける。外傷に伴う内臓損傷への理解や、内科的疾患の理解を得るための基礎的知識の習得を目標とする。全身の体表解剖を理解し、触診等の診察や、整復・固定などの治療法を正確に行うための基礎的知識の習得を目標とする。	2 前期	32	2	○				○			○	
13	○			生理学Ⅰ	生理学の基礎、血液系、循環系、呼吸系の機能を理解し、柔道整復師の臨床に必要な生理学的知識を身に付ける。人体をはじめとした生物が生きるための機能、外傷における生体反応や回復機序、運動における生体機能の変化、疾患のメカニズムなどを理解するために必要な基礎的知識の習得を目標とする。	1 前期	32	2	○				○			○	
14	○			生理学Ⅱ	消化器系、栄養素と代謝系、体温の調節、筋系の機能を理解し、柔道整復師の臨床に必要な生理学的知識を身に付ける。人体をはじめとした生物が生きるための機能、外傷における生体反応や回復機序、運動における生体機能の変化、疾患のメカニズムなどを理解するために必要な基礎的知識の習得を目標とする。	1 後期	32	2	○				○			○	
15	○			生理学Ⅲ	泌尿器系、内分泌、生殖器系、骨系の機能を理解し、柔道整復師の臨床に必要な生理学的知識を身に付ける。人体をはじめとした生物が生きるための機能、外傷における生体反応や回復機序、運動における生体機能の変化、疾患のメカニズムなどを理解するために必要な基礎的知識の習得を目標とする。	1 後期	32	2	○				○			○	
16	○			生理学Ⅳ	神経系、感覚系の機能を理解し、柔道整復師の臨床に必要な生理学的知識を身に付ける。人体をはじめとした生物が生きるための機能、外傷における生体反応や回復機序、運動における生体機能の変化、疾患のメカニズムなどを理解するために必要な基礎的知識の習得を目標とする。	2 前期	32	2	○				○			○	
17	○			生理学Ⅴ	高齢者の生理学的特徴・変化：加齢に伴う各臓器や器官の萎縮や機能低下、体液量の減少、ホメオスタシスの維持、免疫機能の低下などを理解し、老化現象や高齢者に多い疾患や外傷の理解のための基礎的知識の習得を目標とする。競技者の生理学的特徴・変化：競技者がトレーニングによりかかる身体的負荷に伴う、生理学的特徴と変化（循環機能、骨格筋の発達、ATP産生など）を理解し、競技者に起こりやすい障害やトレーニング指導を理解するための基礎的知識の習得を目標とする。	2 前期	32	2	○				○			○	
18	○			運動学Ⅰ	運動器・神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢と体幹の運動について学習する。	2 前期	32	2	○				○			○	
19	○			運動学Ⅱ	体幹脊柱（頸椎・胸椎および胸郭・腰椎・仙椎）、顔面頭部の構成と運動機能について、また姿勢や運動を構成する神経-筋骨格系の関連性について学ぶ。	2 後期	32	2	○				○			○	

20	○			病理学Ⅰ	循環障害、進行性病変、炎症と免疫機構についてなど病理学の基礎を理解し国家試験の出題傾向を把握する。	2 前期	32	2	○				○			○	
21	○			病理学Ⅱ	病理学の基礎を理解し、国家試験の出題傾向を把握する。	2 後期	32	2	○				○			○	
22	○			一般臨床医学Ⅰ	一般的に医科で行われている診察の内容・方法・目的・所見について学習する。具体的に医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚・反射検査、代表的な臨床症状、各種臨床検査の概略を学ぶ。実際の診察を学び、柔道整復師が鑑別診断を行う際に必要な基礎的知識、または患者の既往症や現病歴などの基礎疾患を考慮した治療法の選択、もしくは業務範囲か否かの判断ができるための知識を身に付けることを目標とする。	2 前期	32	2	○				○			○	
23	○			一般臨床医学Ⅱ	各部位の代表的疾患（呼吸器、循環器、消化器、肝・胆道・膵臓・腹膜、内分泌器、代謝・栄養系、血液・造血器疾患、腎・尿路系、神経系、膠原病・リウマチ系、感染症）について種類・概要・症状・治療法を学ぶ。柔道整復師が鑑別診断を行う際に必要な基礎的知識、または患者の既往症や現病歴などの基礎疾患を考慮した治療法の選択、もしくは業務範囲か否かの判断ができるための知識を身に付けることを目標とする。	2 後期	32	2	○				○			○	
24	○			整形外科Ⅰ	代表的な運動器疾患について、その病態、症状、診断、治療等を概説する。	2 後期	32	2	○				○			○	
25	○			整形外科Ⅱ	代表的な運動器疾患について、その病態、症状、診断、治療等を学ぶ。	3 前期	32	2	○				○			○	
26	○			リハビリテーション医学	リハビリテーションについての基本的な医学的知識を習得する。当該等領域の国家試験を解き、その内容を理解する。	3 前期	32	2	○				○			○	
27	○			外科学概論	病態や治療、手技を解剖学的側面・外科学的側面から学ぶ。	2 前期	32	2	○				○			○	
28	○			柔道整復術の適応	柔道整復師の業務において必要な鑑別診断を理解し説明できるようにする。観血療法の適応とすべき事例やその判断をするために必要な臨床所見、内科的疾患を疑うべき事例をもとに的確な判断をし、医師との連携を図るための知識を身に付けることを目標とする。	3 後期	32	2	○				○			○	
29	○			基礎柔道実技Ⅰ	柔道の代表的な技の理解、投の形、寝技の乱取り、立技の約束稽古を習得する。	1 前期	32	1					○	○		○	

30	○			基礎柔道実技Ⅱ	柔道の代表的な技の理解、投の形、寝技の乱取り、立技の乱取り稽古を習得する。	1 後期	32	1				○	○			○	
31	○			基礎柔道実技Ⅲ	受身、立技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを習得する。	2 前期	32	1				○	○		○		
32	○			基礎柔道実技Ⅳ	受身、立技、寝技への理解、柔道の基本である礼法を習得する。3年時に行われる認定実技試験を視野に入れ、「投の形」の一つひとつを確認しながら、一連の流れを完全に習得する。	2 後期	32	1				○	○		○		
33	○			基礎柔道実技Ⅴ	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを習得する。	3 前期	32	1				○	○		○		
34	○			基礎柔道実技Ⅵ	基礎柔道実技Ⅰ～Ⅴの内容を復習する。柔道競技のルールを理解し、安全への配慮、身を守る受け身の技術、的確に相手を倒す技の技術を習得し、認定実技審査に合格する水準の礼法と技術力を身に付け、柔道の後継者を育成することを目標とする。	3 後期	32	1				○	○		○		
35	○			衛生学・公衆衛生学Ⅰ	地域の公衆衛生活動の推進者となる柔道整復師の役割を理解する。正確な知識と医療従事者としての真摯な態度をもって適切な保健医療活動を実践できる能力を養う。	2 後期	16	1	○				○			○	
36	○			衛生学・公衆衛生学Ⅱ	正確な知識と医療従事者としての真摯な態度をもって適切な保健医療活動を実践できる能力を養う。	3 前期	32	2	○				○			○	
37	○			関係法規	柔道整復師の業務に関する法律等を学ぶ。柔道整復師法、その他医療従事者の資格法、その他法律の体系などを学習し、柔道整復師の業務を適正かつ安全に行えるために必要なルールを習得することを目標とする。	3 前期	32	2	○				○		○		
38	○			職業倫理・社会保障制度	柔道整復師が社会的な役割や責任を果たすために必要な倫理を学習する。具体的には、療養費支給についての適切な請求方法や対象、受領委任払いのしくみ等を理解する。また、柔道整復師が社会的地位を保つために、医療界における立ち位置の確認、具体的な就職先や仕事の仕方を学ぶことで、現代に求められている柔道整復師の役割を理解することを目標とする。人々が生涯を通じて健康や障害の状態に横応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養う。具体的には、社会福祉関係や社会保険関係の概要を理解し、適切に社会保障制度を活用できる知識を身に付けることを目標とする。	3 前期	32	2	○				○		○		
39	○			柔道整復学総論Ⅰ	柔道整復学総論を学ぶ。具体的に骨損傷、関節損傷、軟部組織損傷、評価、治療法、指導管理についてを理解し、基礎知識の習得と柔道整復学各論を理解するために必要な知識を身に付けることを目標とする。	1 前期	32	2	○				○		○		

40	○			柔道整復学総論Ⅱ	柔道整復学総論を学ぶ。具体的に柔道整復概論、骨損傷、関節損傷、軟部組織損傷、評価、治療法、指導管理についてを理解し、基礎知識の習得と柔道整復学各論を理解するために必要な知識を身に付けることを目標とする。	1 前期	32	2	○				○	○			
41	○			柔道整復学総論Ⅲ	柔道整復学総論を学ぶ。具体的に柔道整復概論、骨損傷、関節損傷、軟部組織損傷、評価、治療法、指導管理についてを理解し、基礎知識の習得と柔道整復学各論を理解するために必要な知識を身に付けることを目標とする。	1 前期	32	2	○				○	○			
42	○			柔道整復学総論Ⅳ	柔道整復学総論を学ぶ。具体的に柔道整復概論、骨損傷、関節損傷、軟部組織損傷、評価、治療法、指導管理についてを理解し、基礎知識の習得と柔道整復学各論を理解するために必要な知識を身に付けることを目標とする。	1 後期	32	2	○				○	○			
43	○			柔道整復学総論Ⅴ	柔道整復学総論を学ぶ。具体的に柔道整復概論、骨損傷、関節損傷、軟部組織損傷、評価、治療法、指導管理についてを理解し、基礎知識の習得と柔道整復学各論を理解するために必要な知識を身に付けることを目標とする。 外傷の保存療法：保存療法か観血療法かの選択が必要な具体的事例、保存療法の実際における工夫や注意事項（年齢、基礎疾患、部位、経過など）を理解し、リスク管理を中心とした患者指導ができることを目標とする。	3 後期	32	2	○				○	○			
44	○			柔道整復学各論Ⅰ	頭部・顔面、胸部、脊椎、上肢、下肢に発生する骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。業務範囲か否かの判断と遭遇した際の適切な対処や治療を行うための知識を習得し、柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	1 後期	32	2	○				○	○			
45	○			柔道整復学各論Ⅱ	頭部・顔面、胸部、脊椎、上肢、下肢に発生する骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。業務範囲か否かの判断と遭遇した際の適切な対処や治療を行うための知識を習得し、柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 前期	32	2	○				○	○			
46	○			柔道整復学各論Ⅲ	頭部・顔面、胸部、脊椎、上肢、下肢に発生する骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。業務範囲か否かの判断と遭遇した際の適切な対処や治療を行うための知識を習得し、柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 前期	32	2	○				○	○			
47	○			柔道整復学各論Ⅳ	頭部・顔面、胸部、脊椎、上肢、下肢に発生する骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。業務範囲か否かの判断と遭遇した際の適切な対処や治療を行うための知識を習得し、柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 前期	32	2	○				○	○			
48	○			柔道整復学各論Ⅴ	頭部・顔面、胸部、脊椎、上肢、下肢に発生する骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。業務範囲か否かの判断と遭遇した際の適切な対処や治療を行うための知識を習得し、柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 後期	32	2	○				○	○			
49	○			柔道整復学各論Ⅵ	頭部・顔面、胸部、脊椎、上肢、下肢に発生する骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。業務範囲か否かの判断と遭遇した際の適切な対処や治療を行うための知識を習得し、柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 後期	32	2	○				○	○			

50	○			柔道整復学各論Ⅶ	頭部・顔面、胸部、脊椎、上肢、下肢に発生する骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。業務範囲か否かの判断と遭遇した際の適切な対処や治療を行うための知識を習得し、柔道整復に關しての社会的要請の多様化に対応できる臨牀的觀察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 後期	32	2	○				○		○			
51	○			柔道整復学各論Ⅷ	頭部・顔面、胸部、脊椎、上肢、下肢に発生する骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶ。業務範囲か否かの判断と遭遇した際の適切な対処や治療を行うための知識を習得し、柔道整復に關しての社会的要請の多様化に対応できる臨牀的觀察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。物理療法機器の取り扱い：各種物理療法機器の特性・しくみ・効果・危険性・禁忌を理解し、安全かつ効果的な物理療法機器の取り扱いを身に付けることを目標とする。	2 後期	32	2	○				○		○			
52	○			臨床柔道整復学Ⅰ	柔道整復学総論と各論を復習する。柔道整復学総論Ⅰ～Ⅴと柔道整復学各論Ⅰ～Ⅷの内容を柔道整復各論実技Ⅰ～Ⅴと結び付けることで理論と実技の双方から理解をし、実際の臨床に生かせる知識として身に付けることを目標とする。	3 前期	32	2	○				○		○			
53	○			臨床柔道整復学Ⅱ	柔道整復学総論と各論を復習する。柔道整復学総論Ⅰ～Ⅴと柔道整復学各論Ⅰ～Ⅷの内容を柔道整復各論実技Ⅰ～Ⅴと結び付けることで理論と実技の双方から理解をし、実際の臨床に生かせる知識として身に付けることを目標とする。	3 後期	32	2	○				○		○			
54	○			臨床柔道整復学Ⅲ	柔道整復学総論と各論を復習する。柔道整復学総論Ⅰ～Ⅴと柔道整復学各論Ⅰ～Ⅷの内容を柔道整復各論実技Ⅰ～Ⅴと結び付けることで理論と実技の双方から理解をし、実際の臨床に生かせる知識として身に付けることを目標とする。	3 後期	32	2	○				○		○	○		
55	○			臨床柔道整復学Ⅳ	柔道整復学総論と各論を復習する。柔道整復学総論Ⅰ～Ⅴと柔道整復学各論Ⅰ～Ⅷの内容を柔道整復各論実技Ⅰ～Ⅴと結び付けることで理論と実技の双方から理解をし、実際の臨床に生かせる知識として身に付けることを目標とする。	3 後期	32	2	○				○		○			
56	○			臨床柔道整復学Ⅴ	柔道整復術適応の臨牀的判定（医用画像の理解を含む）：具体的な臨床事例、医用画像（X線、MRI、CT、超音波）を臨床所見と結び付け、正確な損傷の把握を学ぶ。これにより、臨床での誤診・看過の防止、業務範囲か否かの判断が的確にできる知識を身に付けることを目標とする。	3 後期	32	2	○				○		○			
57		○		柔道整復学総合Ⅰ	柔道整復師が臨床で必要とする応用的知識を身に付ける。基礎医学と柔道整復学を結び付け、より深い理解と知識を習得する。具体的に骨格筋系や内臓系などの位置や機能を学び、これにより医学的観点から学術的に患者の状態を把握・考察し、業務範囲か否かの判断や的確なインフォームドコンセントを行うための知識を身に付けることを目標とする。	3 前期	128	8	○				○		○			
58		○		柔道整復学総合Ⅱ	柔道整復師が臨床で必要とする応用的知識を身に付ける。臨床医学と柔道整復学を結び付け、より深い理解と知識を習得する。具体的に日常の臨床で遭遇する可能性がある鑑別診断項目などを学び、これにより、医学的観点から学術的に患者の状態を把握・考察し、業務範囲か否かの判断や的確なインフォームドコンセントを行うための知識を身に付けることを目標とする。	3 後期	128	8	○				○		○			
59	○			柔道整復基礎実技Ⅰ	固定に必要な基礎技術を学ぶ。包帯やテーピング等の固定具の基本的な扱いを習得し、各分野の固定法を行うために必要な基礎的技術を身に付けることを目標とする。	1 前期	32	1					○	○		○		

60	○			柔道整復基礎 実技Ⅱ	固定に必要な基礎技術を学ぶ。包帯やテーピング等の固定具の基本的な扱いを習得し、各分野の固定法を行うために必要な基礎的技術を身に付けることを目標とする。	1 前期	32	1				○	○		○		
61	○			柔道整復基礎 実技Ⅲ	固定に必要な基礎技術を学ぶ。柔道整復基礎実技Ⅰ・Ⅱで習得した技術を基に、軟性材料や硬性材料の使用手法や適性を学習し、各分野の固定法を行うために必要な基礎的技術を身に付けることを目標とする。	1 後期	32	1				○	○		○		
62	○			柔道整復基礎 実技Ⅳ	固定に必要な基礎技術を学ぶ。柔道整復基礎実技Ⅰ・Ⅱで習得した技術を基に、軟性材料や硬性材料の使用手法や適性を学習し、各分野の固定法を行うために必要な基礎的技術を身に付けることを目標とする。	1 後期	32	1				○	○		○		
63	○			柔道整復診察 法Ⅰ	診察に必要な技術や知識を学ぶ。医療面接、視診、触診、検査法、測定法等の方法を習得し、臨床実習へ向けて必要な知識と技術を身に付けることを目標とする。また、臨床実習事前評価を行い、医療従事者としてふさわしい者か否かの判定を行う。	1 前期	32	1				○	○		○		
64	○			柔道整復診察 法Ⅱ	診察に必要な技術や知識を学ぶ。医療面接、視診、触診、検査法、測定法等の方法を習得し、臨床実習へ向けて必要な知識と技術を身に付けることを目標とする。また、臨床実習事前評価を行い、医療従事者としてふさわしい者か否かの判定を行う。	1 後期	32	1				○	○		○		
65	○			柔道整復診察 法Ⅲ	診察に必要な技術や知識を学ぶ。医療面接、視診、触診、検査法、測定法等の方法を習得し、臨床実習へ向けて必要な知識と技術を身に付けることを目標とする。また、臨床実習事前評価を行い、医療従事者としてふさわしい者か否かの判定を行う。	2 前期	32	1				○	○		○		
66	○			柔道整復各論 実技Ⅰ	顔面部、体幹部、上肢、下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の治療法や徒手検査法を学ぶ。診察・整復・固定・検査法を口頭で説明できるようにし、その技術を身に付け、柔道整復に関する社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	1 後期	32	1				○	○		○		
67	○			柔道整復各論 実技Ⅱ	顔面部、体幹部、上肢、下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の治療法や徒手検査法を学ぶ。診察・整復・固定・検査法を口頭で説明できるようにし、その技術を身に付け、柔道整復に関する社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 前期	32	1				○	○		○		
68	○			柔道整復各論 実技Ⅲ	顔面部、体幹部、上肢、下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の治療法や徒手検査法を学ぶ。診察・整復・固定・検査法を口頭で説明できるようにし、その技術を身に付け、柔道整復に関する社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 後期	32	1				○	○			○	
69	○			柔道整復各論 実技Ⅳ	顔面部、体幹部、上肢、下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の治療法や徒手検査法を学ぶ。診察・整復・固定・検査法を口頭で説明できるようにし、その技術を身に付け、柔道整復に関する社会的要請の多様化に対応できる臨床的観察能力や分析能力を身に付けることを目標とする。	2 後期	32	1				○	○		○		

[illegible]

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：必修・選択必修の全授業科目を修得	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：授業時数の3分の2以上の出席とする	1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。